

韓国・口蹄疫情報（4/12追記）

平成30年4月12日

動物衛生課

※ 下線部は追加部分

※ 情報は、韓国家畜衛生当局公表資料、当局からの情報等に基づく。

韓国農林畜産食品部は、3月26日、韓国・京畿道の豚農場で口蹄疫の発生が確認された旨を公表。4月1日、当該農場と疫学関連のある豚農場1件で続発が確認された。4月11日、発生地域において新たに豚農場1件で口蹄疫疑い報告があったが、12日、精密検査の結果陰性であることが判明した。

韓国における発生は、2017年2月13日以来。

1 例目（3月26日発生）

1 発生概要

（1）農場

- ・京畿道金浦市大串面（デゴトミョン）の豚農場（1,059頭飼養）  
3月26日、母豚や離乳豚で水疱、蹄の脱落が認められたため、通報。

（2）経緯

- ・京畿道の動物衛生試験所が簡易検査で陽性を確認後、農林畜産検疫本部で精密検査を実施した結果、3月27日、口蹄疫（A型）と確定。

2 韓国政府の対応

（1）防疫措置

- ・全国一時移動停止（3月27日12時から3月29日12時までの48時間）
  - － 全国の偶蹄類家畜、畜産関係従事者及び車両は移動停止、偶蹄類農場や畜産関連施設への出入り禁止
- ・殺処分（発生農場及び周辺3km以内の農場の飼養豚）
  - － 発生農場の周辺3km以内の、豚農場7戸の殺処分は3月30日に完了。
- ・緊急ワクチン接種（0型+A型ワクチン）
  - － 京畿道、忠清南道の豚農場に対するワクチン接種は3月29日に完了。
  - － 4月末までに全国の豚農場に対して接種し、その後、1回目のワクチン接種が完了した豚について、2回目のワクチンを接種予定。

（参考1）韓国における通常のFMDワクチン接種

牛：0型+A型（01 Manisa+0 3039+A22 Iraq）

豚：0型（01 Manisa+0 3039, 0 Campos, 0 Primorsky）

※A型は備蓄のみ

（参考2）京畿道、忠清南道における豚の飼養戸数

京畿道：1,280農場、203.1万頭

忠清南道：1,235農場、227.6万頭

- ・疫学調査（発生の原因、遺伝子解析等）
- ・全国の農場間で偶蹄類の動物の移動禁止（3月27日から4月9日までの2週間）
- ・移動制限区域（発生農場の10km以内）の予察強化

## 2 例目（4月1日発生）

### 1 発生概要

#### （1）農場

- ・京畿道金浦市霞城面（ハソンミョン）の豚農場（3,376頭飼養）  
初発農場から12.7km離れた場所に所在する疫学関連農場（☆）であり、3月27日以降、移動制限、消毒、毎日の予察を実施していたところ。

#### （2）経緯

- ・3月28日に感染抗体（NSP）が検出され、京畿道の動物衛生試験所で精密検査を実施した結果、4月2日、口蹄疫抗原を検出。
- ・農林畜産検疫本部で精密検査を実施し、4月3日、血清型はA型と確定。

### 2 韓国政府の対応

#### （1）防疫措置

- ・殺処分
  - － 発生農場及び同一農場主が所有する第2農場（金浦市月串面（ウォルゴッミョン）に所在）について予防的殺処分を実施。

#### ☆疫学

- － 報道情報によれば、1例目の農場に入った糞尿回収車が2例目の農場に出入りしていたことが判明した旨当局が説明。

## 疑い事例（陰性）

### 1 概要

#### （1）農場

- ・京畿道金浦市通津邑（トンジンウプ）の豚農場（250頭飼養）  
1例目の農場から6.8km離れた場所に所在し、移動制限、緊急ワクチン接種、

毎日の予察等の防疫措置を実施していたところ。

4月11日、口蹄疫の疑い通報（母豚1頭）があったが、精密検査の結果陰性と判明した。

## 2 韓国政府の対応

### （1）防疫措置

- ・ 農林畜産部は、口蹄疫を疑う異状を呈した家畜を発見した際の早期通報を呼びかけた。